

# 赤十字NEWS

May 2011 Vol.852  
http://www.jrc.or.jp



編集・発行 / 日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



## 東日本大震災 より大きく、 より力強い支援の輪を

東日本大震災から1カ月半余り。多くの被災地はまだがれきの山に埋もれたままですが、復興へ向けた歩みが始まりました。困難の中でも再スタートを切ろうとする被災者の方々が大勢います。しかし、あまりに大きすぎる被害と悲しみを前に、「まだ将来を考えられない」という方も少なくありません。

日本赤十字社はこうしたすべての被災者を視野に入れた活動を展開中です。病院や救護班の医療活動、ボランティアの協力を得た生活支援、義援金・救済金による直接的な援助などを通じて、被災者のいまとこれからを見守り続けます。

石巻市の避難所で炊き出しに参加する広報特使の藤原紀香さん / ©Ichigo Sugawara

### CONTENTS

**2 TOPICS**  
インドネシア人のスワルティさん  
看護師合格  
「児童福祉週間」スタート  
子どもたちを包む日赤の社会福祉施設

**3 TOPICS**  
あなたの寄付が支える  
救援・救護活動  
赤十字運動月間スタート  
常任理事会開催報告

**4 | 5 SPECIAL**  
東日本大震災  
がれきに埋もれた被災地で—  
いまを生きる被災者とともに  
明日を信じて

**6 | 7 AREA NEWS**  
福島・秋田・岡山  
和歌山・長野  
お知らせ  
プレゼント

**8 WORLD**  
東日本大震災  
世界各国から寄せられた激励の言葉  
Spirit of Togetherness  
内戦からの復興を手助け  
ウガンダの医療支援事業

### クロスアップひと



ミュージシャン  
大黒摩季さん

## 悲しみに勝るメロディーを被災地に

「ら・ら・ら」「熱くなれ」など聴く人を勇気付ける楽曲で知られる大黒摩季さん。昨年末より病気治療のため休養中でしたが、東日本大震災で被災された方々の心細さを少しでも受け止めたいと、親友で赤十字広報特使を務める藤原紀香さんと現地を訪れました。

「町内会のおばちゃんみたいなのがある」と根の明るさを自認する大黒さんですが被災地の惨状には絶句。ただただ涙が溢れ、「被災された方にどんな言葉をかけてあげた

らいいのかわかりませんでした」  
そんな状況で、口をついて出たのはメロディー。「私にとって音楽は言葉より先に思いを届けてくれるモノなんです」  
被災地で思わず披露したアカペラにはみんなが合唱。「失った悲しみを一瞬でも忘れてくれたなら最大限の貢献ができたと思います。被災地ではみんなが支え合って笑顔をつくっていました。赤十字にはそうした前向きな姿勢を世の中に伝えてほしいですね」

### PROFILE

88年に歌手を目指し北海道から上京。92年、1stシングル「STOP MOTION」でデビュー。ストレートな歌詞と力強い歌声が特徴。2ndシングル「DA・KA・RA」は100万枚のセールスを記録し、以降も数々のヒット曲を送り出す。現在は「仮面ライダーオーズ」の主題歌を担当し、話題を集めている。11月から病気治療のため歌手活動を休止している。

# インドネシア人のスワルテイさん看護師合格

## 「日本人と心通じる看護を目指したい」

3月25日に発表があった第100回看護師国家試験で、インドネシアとの経済連携協定(EPA)に基づき姫路赤十字病院(兵庫県)で受け入れているスワルテイさん(愛称スーさん、32歳)が、見事に合格を果たしました。



スーさんの笑顔はみんなを明るくしてくれます

合格率わずか4%の難関

今回の国家試験を受験したEPA看護師候補は合わせて398人。合格したのは16人で、合格率は4%でした。日本の施設で受け入れている看護師候補の中で、合格したのは昨年に続いて2人目です。スーさんはインドネシアで看護専門学校や大学を経て8年間看護師として働き、平成20年8月に「高い看護知識と技術を学びたい」と来日。半年の語学研修のあと、平成21年2月から同病院で看護師助手として働きながら、勉強してきました。

泣きながら勉強した日々

スーさんは来日当初を「勉強は楽しかったし、少しずつ日本語を覚えていくことがうれしかった」と振り返ります。ところが、入職すると環境は一変。「周りの皆さんの言うことが分からず、仕事が終わると毎日泣きました」。インドネシアに帰ろうかと思つたこともたびたびです。

2回目の受験となった昨年2年10カ月の経験がスーさんの決意を確かなものにしていきます。看護師免許交付までは「心得」と表記

と1回、同病院の柴田由美子看護副部長と話し合つて勉強方法をがらりと変えました。

「今度は私が合格する番」

病院全体が応援する中、スーさんは「一生懸命に勉強しました。楽しいことは一つもありませんでした。いろんな人がサポートしてくれているのに、頑張らなかつたら恥ずかしいから」と合格への誓いを新たにしました。

試験前日、看護部長や副部長からの激励を受け、当日も「みんなで祈ります。頑張ってください」というメールをもらったスーさん。「絶対できると思いつつ試験を受けました」

若い職員に良い影響を

スーさんの存在は職員にも影響を与えたといえます。柴田副部長は「彼女のフレンドリーで積極的な人柄に接して、若いスタッフのモチベーションが高くなりました」と評価します。

現在は看護師(心得)として同病院のNICU(新生児集中治療室)に勤務。「日本や日本人をもっと理解し、『いい看護師』になりたい。難しいことがあっても、頑張ればきっとできると思っています」と抱負を語ります。

「救護班に加わって日本に恩返し」

4月下旬、スーさんは兵庫県支部救護班に帯同し東日本大震災の被災地に入りまし

た。「2004年のスマトラ島での津波災害の時の恩返しをしたい」という思いから、国家試験合格の記者会見の席で湯浅志郎院長に直訴して実現しました。「被災地で私がニコニコした顔を見せれば、みんな少しでもつらいことを忘れてくれるかもしれません」「スワルテイ」とはジャワ語で、「よい知らせ」という意味。スーさんの活動は被災者の皆さんにきつと「よい知らせ」をもたらしてくれることでしょう。



那覇市安謝福祉複合施設

## 子どもたちを包む 日赤の社会福祉施設

### 「児童福祉週間」

### 5月5日からスタート

5月5日の「こどもの日」から1週間は、子どもと家庭を取り巻く環境のあり方や、子どもの健やかな成長について国民全体で考える「児童福祉週間」です。

同週間は厚生労働省や全国社会福祉協議会などの主催で昭和22年から始まったもの。期間中は「母と子の健康づくりの推進」「障害のある子ども等に対する理解の促進」などの運動が全国で展開されます。日本赤十字社も協力団体として参加しています。



松江赤十字乳児院

一緒に遊ぼうよ

今年度は、5月11日まで各中央省庁にこのほりを掲揚したり、こどもの日に国営公園の入場を無料にする取り組みなどを実施。また、全国の施設でのイベント実施なども予定されています。

運動のスローガンとなる標語は長崎県の大瀬美乃里さん(11)の作品「おいでおいで みんなで一緒に遊ぼうよ」が選ばれました。日赤は、運営する社会福祉施設を活用して、標語のよりに子どもたちが集まって楽しく遊ぶことができる機会を提供しています。

世代を超えた交流が気軽に

全国に28カ所ある日赤の社会福祉施設。その運営は年間延べ約5万人のボランティアの参加によって支えられています。こうした取り組みを通じて、住民からの信頼も厚い、地域に根ざした施設になっていきます。

沖縄県那覇市安謝福祉複合施設内にある児童館は、乳幼児から高校生まで、市内に住んでいる子どもであれば誰でも自由に遊べるスペースです。訪れる子どもたちは、隣接する特別養

護老人ホームを利用する高齢者とも盛んに交流を深めています。最近では新しく導入された大型スクリーンを使って、ゲームやカラオケなどを一緒に体験しました。島根県の松江赤十字乳児院は平日午後から施設内のプレイルームを開放中です。乳幼児が自由に遊べるほか、保育士による紙芝居や絵本の読み聞かせ、子育て相談も実施しています。予約なしで気軽に足を運ぶことができ、地域に住む母子の憩いの場として親しまれています。



# 赤十字運動月間スタート

## 東日本大震災

# あなたの寄付が支える被災地の救援・救護活動

毎年5月は「赤十字運動月間」。日本赤十字社の活動を資金面から支える「社員」への参加を広く呼びかけています。日赤は、東日本大震災の発生後直ちに、全国から多数の救護班を派遣するなど、被災者救護を展開し、現在も多くの救護班が医療支援を継続中（4～5面に詳細記事）。これらの活動は「社員」の皆さんから寄せられる「社費」でまかなわれていて、義援金は一切使われていません。日赤が力強い支援活動を継続していきけるよう、一人でも多くの方々の「社員」参加をお願いします。

### 年間5000円以上であなたも「社員」に

社員とは、日赤が国内外で取り組むさまざまな人道的活動や、赤十字の理念・活動に賛同し、年間5000円以上の資金協力をしていたり、個人・法人を問わず、年齢や職業にも関係なく、あなたが「社員」になることができます。日本赤十字社がこうした活動を支えるため、あなたもぜひ「社員」としてご加入ください。

### 「社員」にご参加いただくには

#### 口座振替による加入

日赤ホームページからダウンロードした「社員加入申込書」に必要事項をご記入の上、お送りください。預金口座振替（自動引き落とし）により毎年継続して社費を納入していただけます。

#### 支部や市区町村窓口で加入

各都道府県支部や市区役所、町村役場の窓口でお申し出ください。

#### 家庭訪問の際の加入

赤十字運動月間中は、赤十字ボランティアや町会・自治会などの方々のご家庭を訪問します。その際にお申し込みください。

社員加入の方法についての詳細はホームページ（www.jrc.or.jp）をご覧ください。日赤の各都道府県支部などにお問い合わせください。

ナビダイヤル ☎0570-009595

### 義援金と海外救援金の違いは？

義援金は被災者に公平配分

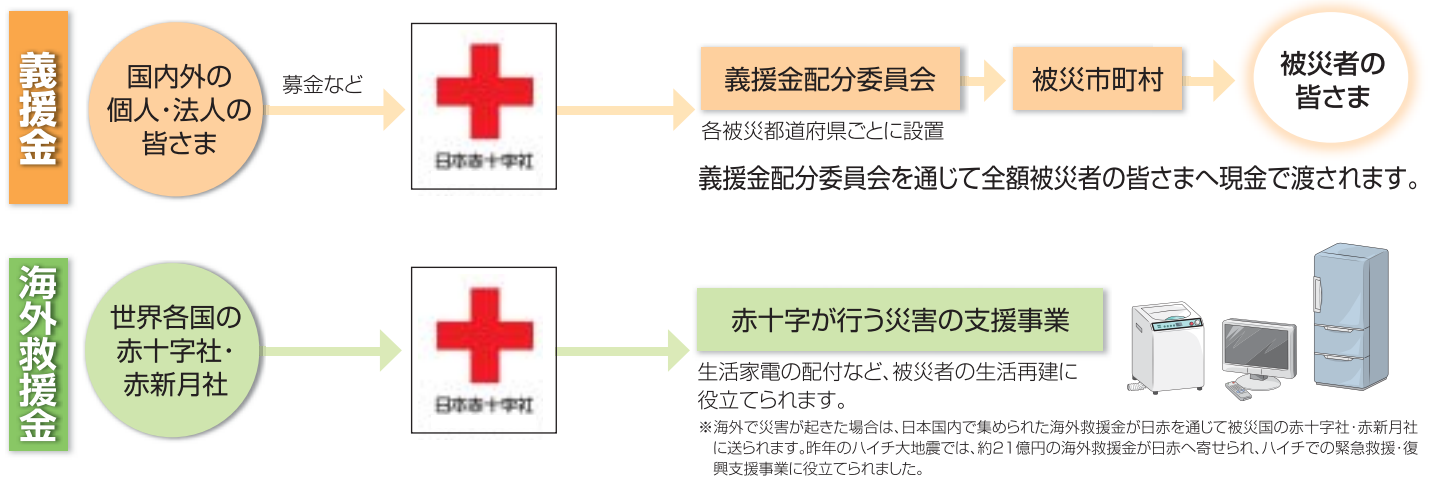
日本赤十字社では、東日本大震災で被災された方々への「義援金」を受け付けています。すでに国内外の多くの皆さまから多額の善意が寄せられており、その総額は4月22日時点で151.8億64万円となっています。日赤に託された義援金は、被災地に設置される義援金配分委員会（自治体や中央共同募金会、日赤などで構成）に全額送金され、同委員会が定める配分基準に従って被災者へのお見舞いと生活支援となるよう届けられます。

生活再建に役立てられる救援金

一方、日赤が行う災害支援活動のために世界各国の赤十字社・赤新月社から「海外救援金」が寄せられています。日赤ではこれを財源として、仮設住宅への生活家電セット寄贈など、被災者の生活再建に役立つさまざまな支援を行うことになっています。日赤は震災直後から被災地で救護活動を行い、被災者のいのちと健康を守る取り組みに全力をあげてきました。これは社員の皆さまからの社費と寄付金を合わせた社費をもとにした活動です。



### 義援金や救援金の流れ



### 活動資金の流れ



### 常任理事会開催報告

平成23年4月22日、本社において平成23年度第1回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

1 理事会に付議する事項について

（東日本大震災にかかる海外救援金を財源とする平成23年度一般会計歳入歳出予算の補正手続き）

審議の結果、原案のとおり理事会に付議することに付議されました。

また、東日本大震災における日本赤十字社の災害救護活動の取り組みについて、東日本大震災義援金等の取り扱いについて、予算の補正にかかる2月及び3月の社長専断事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

REPORT

東日本大震災

がれきに埋もれた被災地で

いまを生きる被災者とともに

明日を信じて

被災地医療の砦 石巻赤十字病院 「患者さんのために」の志は揺るがず



東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手、宮城、福島各県沿岸部を中心に、日本赤十字社は延べ666班の看護班を派遣し、5万人余りの方へ医療活動を実施（4月25日現在）。このほか、「こころのケア」や救援物資の配付、赤十字ボランティアによる炊き出しなど多面的な活動の展開により、被災者のいまを励まし続けています。

市街地を襲った大津波を免れた宮城県石巻市の石巻赤十字病院。震災後は1日に1000台を超える救急車が押し寄せ、1000人以上の患者を診察するなど、院内は緊迫感に包まれました。震災から1カ月以上が経過した4月中旬時点でも、救急車で運び込まれる急患の数は震災前の約2倍。被災地医療の砦としての役割を担っています。

職員も被災者 ざりざりの精神状態

早期のライフラインの復旧を訴える。それが石巻で唯一救命救急センターがある赤十字病院としての使命です」と小林医師は力強く語ります。

喜びを力の源に

「津波で破壊された町並みと人々の気持ちが元どおりに戻ることはないかもしれません。それでも被害を現実として受け入れ、少しでも復興へ舵を切らなくてはと進言します。」

同院に診察に訪れる人の3割は避難所での生活を余儀なくされている方々です。水道の復旧が遅れている地区の避難所では、トイレの水も流せず、新聞紙に用を足し、それを丸めてごみ袋に捨てるなどの困難が続いています。こうした劣悪な衛生環境の下での感染症拡大も懸念されています。



玄関前でトリアージ(優先度決定)を行う



薬を受け取るため多くの人々が病院を訪れる

被災地駆ける看護班 一人ひとりに寄り添って

「前回のどが痛かったみたいですが、と治りました。」「まだ風邪が治らなくて。咳が止まらない。」 岩手県陸前高田市の避難所となり80人余りが身を寄せる下矢作コミュニティセンター。朝8時半に看護班が到着すると、診察を待つ10人ほどの列が。10畳ほどの小さなスペースでは、息づく間もなく診察が始まりました。

目立つ「眠れない」の訴え

別の避難所からきた荒木トツ子さん(77)は「避難所では周りの咳が気になってゆっくり眠れない。つらいです」と訴えます。慣れない集団生活に体調を崩す被災者は少なくありません。この日の巡回診療を担当していた秋田県支部の東海林るみ子看護師は「狭い場所に大勢が暮らしていますから、風邪が簡単に感染してしまふ。不眠の訴えも目立ちます」と話します。

回復力を引き出す支え合い

「花粉症や風邪で来られる方が多いんですが、「ほかにつらいことはありますか」と聞くと、「実は」という方が少なくありません」と顔を曇らせるのは福井県支部の畠中美和看護師です。「話しをすると悩みが溢れ出す人が多い。そんな不安を少しでも軽くしてあげたいと思います」

長期化する避難生活ではメンタル面の悪化も心配されています。悲しみを前面に出さない被災者も多く、つらい思いを閉じ込めているのではとの懸念も出されています。

今回の震災で日赤は、看護班とは別に「こころのケア」を行う「こころのケアチーム」も被災地に派遣。被災者に寄り添う活



「日赤の診療所がここにあるのでとても助かっています」

海外救援金で生活支援 「精一杯生きてお返しを」

陸前高田市の避難所となった第一中学校の校庭には、震災後初めてとなる仮設住宅36戸が建設され、4月9日から入居が始まりました。日本赤十字社は、世界の赤十字社、赤新月社から寄せられた生活家電6点セットを贈呈。被災者の新生活をサポートしています。

「このままでは終われない」

仮設住宅への入居期限は2年間。そのため被災者の中には「2年で自立と言われても難しい」という意見が少なくありません。山田さんも「町がここまで破壊されて



家電6点セットは、今後建設される約7万戸すべての仮設住宅に贈られる予定です

これからも継続、充実の日赤支援

看護班は、各地の災害対策本部と調整しながら、救護所開設や巡回診療、医療施設へのスタッフ派遣などを今後も実施。被災者のストレスなどに対応するため、こころのケア要員の増員にも取り組まれます。また、復興に向けた仮設住宅への支援など生活支援も継続して

藤原特使が被災地にエール

「世界中が共につながっている」

赤十字広報特使の藤原紀香さんが4月12日から東日本大震災の被災地に入り、宮城県内の避難所や石巻赤十字病院などを訪問。被災者や医療スタッフを激励しました。一刻も早く支援したいという藤原さんの強い思いのもと、主演舞台を10日に終えた2日後、すべて自費で行われた今回の活動。石巻赤十字病院では、「こうして皆さんのエネルギーを感じることができて本当にうれしい。世界中が共につながっていますから、どうか希望を持って頑張ってください」とエールを送るとフロアは大きな歓声と拍手に包まれました。



©Chigo Sugawara

約290人が避難する石巻市立湊小学校ではカレーの炊き出しにも参加。2人の娘さんと別に並んだ高橋真紀さんは「子どもたちが喜んでいるのがうれしい。力をもらえた」と笑顔で話しました。



約50個の募金箱すべてに募金する人や1人で20万円を寄せた方も

### 東日本大震災 学生・教員が被災者支援に



秋田 2011.3.19

日本赤十字秋田看護大学と同短期大学では、東日本大震災の被災者支援へ向けて、学生と教員によるさまざまな取り組みが展開されています。

同学学生赤十字奉仕団は3月19日、JR秋田駅前で募金活動を実施。他大学の奉仕団や一般学生を含む120人が参加し、144万円の義援金を集めました。23日から25日にも学生有志10人が市内で募金活動を行い、約50万円が市民から寄せられました。集まった194万円の義援金は県支部を通じて、被災者へ送られます。募金活動に先立つ16日には、学生有志15人が秋田県庁で、市民から寄せられた救援物資を仕分けるボランティア作業に協力しました。

教員による支援は、その専門知識を生かした活動です。地域看護学を教える佐々木亮平助教授(保健師)は、3月16日から4日間、被害の大きかった岩手県陸前高田市に入り、同市の保健医療活動の連絡調整にあたりました。同月24日から30日にかけても4人の教員が交代で同市に派遣され、保健医療の調整活動などに従事しました。

3月25日から30日には3人の教員が宮城県の石巻赤十字病院に派遣され、病棟業務支援と石巻地区での被災者支援ニーズの調査にあたりました。

### 東日本大震災 防災ボランティア 先遣隊を派遣



派遣された4人は食べ物や寝袋を現地に運び込んで活動



岡山 2011.3.30

岡山県支部では、支部の防災ボランティアセンターに登録した防災ボランティア4人(市村功リーダー)を3月30日、被災地の宮城県へ派遣しました。

被災地に5日間滞在した4人は、宮城県支部との連携の下、がれきの撤去作業や救援物資の仕分けなどの活動に従事。あわせて被災地のニーズ把握に努め、4月29日に派遣された第2陣(20人派遣)の道筋を作りました。

東日本大震災を受け、支部では3月23日から防災ボランティアの登録を開始し、4月5日までに250人の登録を受け付けています。今後も被災地ニーズを踏まえ、防災ボランティアを被災地へ派遣していく予定です。



炊き出しには被災者から毎回感謝の声が寄せられました

### 東日本大震災 被災者支援へ奉仕団が1カ月通して炊き出し



福島 2011.4.7

東日本大震災や福島第一原発事故を受け、福島県内各地の避難所には約2万6000人(4月10日現在)が避難。各避難所では赤十字奉仕団員がさまざまな支援活動を展開しています。避難所の一つとなっている会津若松市ふれあい体育館では、会津若松市女子赤十字奉仕団が3月16日から4月15日までの1カ月間、毎日300食の炊き出しを行ないました。

炊き出しは、毎日昼食と夕食の2回実施。毎回10人前後の団員が参加し、延べの参加人数は500人に上りました。同奉仕団の事務局長を務める栗城美保さんは「避難されてきた方に、せめて温かい食事を召し上がってほしいという気持ちで続けてきました」と話します。

3月11日に最初の避難指示が出て以来、原発周辺の住民は避難所を転々と移動。ふれあい体育館に避難する大熊町の男性は「ここで4カ所目。着の身着のまままで避難してきたので、当座の生活資金もない」とため息をつきます。同奉仕団の諏訪幸子委員長は「大変な思いをされている被災者の役に少しは立てたのでは...。福島県にはさまざまな風評被害も出てきていますので、原発事故の一日も早い終息を願っています」と語っています。

### 東日本大震災 血液センター看護師 が避難所で健康相談



長期化する避難生活では健康管理が大きな課題です



福島 2011.3.25

福島県支部では県内各所に避難されている被災者の健康維持を図るため、3月25日から健康相談を実施しています。

福島・会津・いわきの各血液センターから看護師を各避難所に派遣し、避難されている被災者の血圧測定や健康相談を行っているもの。

活動終了後に看護師から提出される報告書が避難者の健康状態の把握にとっても役立っていると、管轄する保健福祉事務所からも高い評価を得ています。

皆さまのご協力により、現時点では安定的に血液をお届けできています。善意の血液を最大限に活用するため、今後とも一時的に偏ることのない継続的な献血へのご協力をお願いします。

## Sports スポーツとコラボ



### ジャイアンツ坂本選手が今年も赤十字とコラボ企画

読売巨人軍の坂本勇人選手がデザインをプロデュースした「赤十字コラボチャリティートートバッグ」が販売中です。販売期間はシーズン終了まで。収益金は全額、東日本大震災の被災地復興に役立てられます。

バッグは、坂本選手の名前とガッツポーズのシルエットが入ったデザイン。東京ドームのグッズショップ「TO-DO」やジャイアンツのオンラインショップでも取扱中です。

巨人軍は今シーズン、児童養護施設の子どもたちを地方遠征の試合に招待する「坂本勇人選手赤十字シート」を昨年に引き続き実施。この地方遠征では試合前のステージG-KINGで赤十字PRイベントやトートバックのチャリティー販売なども予定されています。

### 2011年シーズン地方遠征

#### 坂本勇人選手赤十字シート&赤十字PRイベントの実施予定

- 5月10日(火) 群馬県前橋市 横浜戦
- 6月28日(火) 福島県郡山市開成山 ヤクルト戦
- 6月29日(水) 栃木県宇都宮市 ヤクルト戦
- 7月19日(火) 新潟県新潟市 中日戦
- 7月20日(水) 新潟県新潟市 中日戦
- 8月30日(火) 福井県福井市 横浜戦
- 8月31日(水) 富山県富山市 横浜戦

### 旧日本赤十字社 救護看護婦等に対する 書状贈呈事業についてのお知らせ



先の大戦において戦地等に派遣され、戦時衛生勤務に服された旧日本赤十字社救護看護婦、および旧陸海軍従軍看護婦の方々のうち慰労給付金受給対象とならない方に対して、そのご労苦に報いるため内閣総理大臣名の書状を贈呈しています。

書状の贈呈は、請求に基づいて行うこととしておりますので、請求される方は、総務省大臣官房管理室へ直接請求書類を送付してください。請求書の用紙は、当管理室のほか、各都道府県および日本赤十字社各都道府県支部に用意してあります。

なお、請求期限が2年間延長され、平成25年3月31日までとなりました。ご本人またはご家族などからのご連絡をお待ちしております。

#### 1. 請求することができる方

外地における勤務経験を有し、加算年を含めた勤務期間が12年未満の旧日本赤十字社救護看護婦及び旧陸海軍従軍看護婦であった方。ただし、「慰労給付金を受給されている方」および「すでに内閣総理大臣の書状を受給されている方」は対象となりません。

#### 2. 請求期限

平成25年3月31日まで

#### 3. 請求書類の送付先および問合せ先

〒100-8926 東京都千代田区霞ヶ関2-1-2  
総務省大臣官房管理室 業務担当  
電話 03-5253-5182(直通) FAX 03-5253-5190

### 日赤の活動現場から 菅原一剛写真展開催



東京



日本写真学院で主任講師を務める菅原一剛さんの写真展が、都内の同学院内で開催中です。菅原さんが赤十字広報特使の藤原紀香さんと同行し、バングラデシュ(2008年)とケニア(2009年)で撮影した作品約20点を展示しています。「東日本大震災で被災された方に、困難な環境の下でも力強く生きる人々を写真を通じて知ってもらいたい」と同学院は開催趣旨を述べています。

場所 日本写真学院内「THE GALLERY」入場無料  
東京都中央区湊1-8-11 千代田ビル4F  
会期・時間 5月31日まで 1~8日と月曜日は休廊 10:00~17:00



東山東小学校のみんなありがとう

### 東日本大震災 JRC小学校から被災地の子どもたちへエール



和歌山 2011.3.28

青少年赤十字(JRC)に加盟する和歌山市立東山東小学校から3月28日、東日本大震災で被災した岩手県山田町の大沢小学校の児童に応援の寄せ書きが贈られました。

山田町で診療活動を展開している日本赤十字社和歌山医療センターの救護班が届けたもので、大沢小学校の子どもたちはさっそくお礼の返事を作成。3年生の熊谷優香さんの「元気をもらったので私たちからもちがう学校の人たちに元気がでる手紙をいっぱい書いて書きたいです」など12通が救護班に預けられました。

山田町は東日本大震災で甚大な津波被害を受けた地域の一つ。大沢小学校が高台にあったことで児童は全員無事でしたが、発災から数日は両親の行方が分からないなど不安な日々を過ごしました。

発災時6年生だった蒲野利夏さんは、「がんばろうね、大丈夫だよと声を掛け合えるみんなが心のよりどころでした」と振り返ります。自宅は津波により失われたものの、「大人たちが元気をなくしているから、子どもから笑顔を見せて明るい大沢を取り戻したい」と話しています。

### 県内2つの赤十字看護専門学校で入学式



長野 2011.4.5



在校生から歓迎の合唱が贈られました(諏訪)

長野、諏訪の両赤十字看護専門学校では平成23年度の入学式が4月5日に行われ、合わせて86人の新入生が看護師へ向けた第一歩を踏み出しました。

両校の校長は式辞で「学ぶ喜びを感じながら、自ら志した看護を目指してほしい」「人間的豊かさを養うと共に、生涯にわたって知識・技術の習得に努めてほしい」の言葉を入学生に贈りました。

入学生代表からは「東日本大震災で被災者の救援に努めている赤十字の活動が深く心に刻まれました。どんな時でも傷ついた人々に手を差し伸べられる看護師になれるよう勉学に励みたい」の誓いの言葉が述べられました。

### 音楽で被災地に勇気を 6.25幕張から 日本と世界へ発信



東京 2011.6.25

東日本大震災の被災地を音楽で支援するイベント「MTV VIDEO MUSIC AID JAPAN」が6月25日に幕張メッセで開催されます。主催は音楽&エンターテインメント・チャンネル「MTV」。日本赤十字社も協力し、日本から世界に向けて復興へのメッセージを呼びかけます。

同イベントへの出演は、世界的ポップスターのレディー・ガガやEXILE、西野カナなど国内の人気アーティストがすでに決定。MTVのほか一部ケーブルテレビやスカパー!でもノースクランブル(無料)で生中継放送されます。出演アーティスト、視聴・観覧応募方法などの詳細は、vmaj.jpをご覧ください。

### プレゼント 応募方法

「赤十字新聞」や赤十字活動へのご意見や感想などを下記までお寄せください。毎月抽選で素敵な赤十字グッズをプレゼントします。

今月号のプレゼント  
赤十字コラボチャリティートートバッグ  
郵送/〒105-8521  
東京都港区芝大門1-1-3  
日本赤十字社企画広報室  
赤十字新聞5月号プレゼント係  
FAX/03-3437-7091  
メール/koho@jrc.or.jp

(件名/赤十字新聞5月号プレゼント応募)  
応募締切/5月30日(月)必着  
お名前、ご住所、電話番号、希望プレゼント名を明記してご応募ください。  
匿名希望の際はの旨もご記入ください。  
当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



縦100%・W35cm×H36cm×D10cm



# 赤十字の連帯の精神

## Spirit of Togetherness

東日本  
大震災

### 世界各国から日赤へ寄せられた激励の言葉

3月11日の地震発生から数時間も経たないうちに、日赤スタッフの安否を気遣うメッセージと激励の声が、世界中の赤十字社・赤新月社から届き始めました。

多くの社が同じように災害を経験し、そしてそれを乗り越えてきた過去を持っています。だからこそ、「日本の皆さんがいかなる困難の中にいるかを痛いほど感じます」というメッセージが数多く寄せられたのです。



世界各国の赤十字を通じて寄せられた海外救援金で、避難所に給水タンクが設置された ©Nobuyuki Kobayashi

#### 日赤の救護活動に力強いエール

震災直後から救護活動を開始した私たちの取り組みは、日赤のホームページだ

けでなく、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)によりトップ記事として取り上げられました。

こうして紹介された日赤の救護活動に対して各国の社からは応援の声が相次ぎ

ました。

「日赤の組織立った迅速な動きは非常に素晴らしい。私たちは同じ赤十字の仲間として、あなたたちの活動をとて誇らしく、また心強く感じています」「日赤は間違いなく、世界中の見本となる社だと確信しました」

#### 殺到する寄付・ボランティアの申し出

これまで海外で災害が発生する度に、日赤は資金や人材により被災国の社を支援してきました。その資金を支えていたのは、日本の皆さまから寄せられた寄付金です。今回はそうした動きが、私たち自身に向けられることとなりました。

各国の社には、寄付やボランティアを申し出る市民が殺到しているといえます。「これまで日本の人々と日赤が差し伸べてくれた支援を忘れたことはない。

今こそ私たちがお返ししたい」と、多くの社が次々と支援を申し出てくれました。

#### 世界中の仲間が日赤とともに

各国の社から寄せられた激励の言葉は、100通を超えました。今、世界中の仲間が、私たちの活動を見守ってくれています。

「日本は必ずこの困難を克服すると信じています。それを支える日赤の絶え間ない努力に、私たちはただ敬意を表すばかりです。世界中の赤十字社・赤新月社があなた方とともにあることを、どうか忘れないでください」



# 内戦からの復興を手助け ウガンダの医療支援事業

「治療費が払えず、交通手段もないので、よほどのことがなければ病院に来ることはありません。そのために手遅れになるケースは多い。日本なら救えるいのちが救えないケースが少なくありませんでした」

ウガンダ共和国北部のアンボロソリ医師記念病院で医療支援を行ってきた中出雅治医師(大阪赤十字病院国際医療救援部長)が先頃帰国。同地域での医療事情について語りました。



現地の研修医と中出医師(左から2人目)

#### 戦争のトラウマ

ウガンダ北部は内戦の被害が大きかった地域。深刻な医師不足が続いており、医師育成が急務です。日本赤十字社はウガンダ赤十字社の要請に応え、2010年4月から3年間、外科医を派遣。研修医指

導とともに、患者治療にあたっています。昨年4月と今年1月の2回、計4カ月間同国へ派遣されていた中出医師は「難民キャンプに暮らす人がまだ大勢いて、震災孤児や夫を亡くした女性の姿も少なくない」と内戦の爪痕を語ります。

仕事がないため、昼間から酒のトラブルを起こし、病院に運ばれる男性も珍し

くありません。長い内戦によるトラウマを抱える人が多く、それが暴力の引き金になっているとの地元医療関係者の指摘もあります。

しかし、戦後復興は一步步進んでいます。「この地域に暮らすアチョリ族の人たちは決して怠け者ではない。『5年後を見てくれ』という彼らの姿にたくましさを感じますよ」

#### 育っていく研修医

「検査のための医療機器がないので、触診や聴診など五感に頼らざるを得ません。専門外の患者であっても診察しなければなりませんし、開腹手術を行うかどうかの判断も迫られます」

今回の医療支援の難しさの中出医師はこう話します。しかし、同時に大きなやり甲斐もあるといえます。「我々の支援を病院スタッフも患者さんも大変喜んでくれる。患者さんの回復という形で支援効果が見えることも嬉しい」

支援地域の北部は、ウガンダの中でも辺鄙な場所で、医師の定着率も良くありません。

そんな中で、今回の医療支援事業ではこれまで7人の研修医に外科治療を指導してきました。そのうちの1人が今年2月、正式な医師としてアンボロソリ医師記念病院に戻ってきたのです。



#### ウガンダ共和国

Republic of Uganda

アフリカ東部に位置する内陸国。本州ほどの国土に約3000万人が暮らしています。2008年までの約20年間続いた内戦で数万人が犠牲に。一時は200万人もの人々が避難キャンプに逃れていました。現在、国際機関や援助機関による支援を受けつつ、地域の再建に取り組んでいます。



「医師数が少ないウガンダでは、研修医も多くの症例経験を積むことができるので、皆優秀です。彼がこの病院に働きがいを見つけてくれたことも、我々の支援の成果の一つだと思っています」